

高住宮ノ谷遺跡 たかすみみやのたにいせき & 高住牛輪谷遺跡 たかすみうしわだにいせき

順調に調査進行中!!

高住牛輪谷遺跡では、古代以降に堆積した層を取り除いた第4面の調査を行い、溝や柱穴などを検出しました。柱穴には柱の根本が残るものもあり、建物が存在した可能性があります。ここまでの調査では水田跡やそれを区画するアゼの跡が主な遺構でしたが、今後はこうした建物跡なども見つかかりそうです。

なお、調査区北西部分では古墳時代後期（約1,400年前）の「陶棺」の破片が数点見つかっています。「陶棺」は粘土で作り焼いた棺桶で、亡くなった人の中に入れて古墳に納めたものです。見つかったのは同じ棺の破片のようですが、全体の形はいまのところ不明です。これまでも本遺跡の調査で破片が見つかっており、今回見つかったのも同一かどうか、今後検討していきたいと思えます。

↓第4面の全景写真（西から撮影）中央付近に柱穴が並んでいます。



→平成23年度の調査で見つかった陶棺。左側は蓋が屋根の形をしたもの、右下の破片は陶棺独特の亀の甲のような形をしたものです。



鳥取西道路の遺跡を掘る!

第76号 2015年8月21日

遺跡からは、土器や石器など人が作ったもの以外に、木の実や種などの自然の産物も出てきます。

今回は遺跡から出てきた夏の果物、モモのお話です。



ただのモモ? 実はオドロキ、モモ/キ...

モモの種（「核」といいます）は堅い殻に覆われていて腐らず残りやすいので、遺跡の発掘現場でしばしば出土することがあります。モモは中国大陸原産ですが、古くから日本列島に伝わっていたようです。鳥取市青谷町にある青谷上寺地遺跡をはじめとして弥生時代の遺跡から大量のモモ核がこれまでに出土しています。鳥取西道路の発掘現場でも、例えば高住牛輪谷遺跡では、昨年度の調査だけで約1,000個も出土しています。

原産地の中国では、モモは不老不死の実だったり、魔除けの力があると考えられていました。孫悟空が3,000年に1度実をつける「蟠桃」をいくつも食べて長寿になった話は有名です。

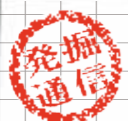
日本でも、日本書紀や古事記には、イザナギが黄泉の国から帰るときに、追いかけてくる雷神に黄泉の国の入口に生えていたモモを投げつけて追い払う記述があります。このように日本でもモモは邪気を払うなどの霊力を持つものとして考えられていて、今でも一部の地域にはモモを使った風習が残っているそうです。

ちなみに高住牛輪谷遺跡やその周辺には、集落跡や古墳群があるので、当時の人々が日々の生活の中や古墳でのお祭りなどで、夏に（邪気を払う意味で）モモを供えていたのかもしれませんが。



高住牛輪谷遺跡出土のモモ核

参考文献：国立歴史民俗博物館編 2004『海をわたった華花』



8月8日（土）に開催した大柁遺跡の現地説明会では、多くの皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。
今後も各遺跡で説明会を計画しておりますので、ご期待ください。
詳しくは本誌および財団ホームページでお知らせします。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

(公財) 鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太 12 番地

TEL: 0857-51-7553 FAX: 0857-51-7550

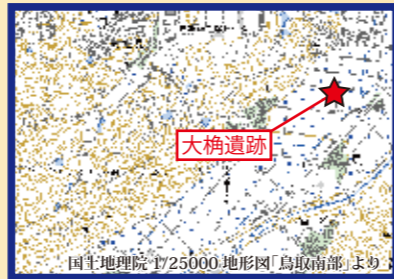
メールアドレス: tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

HP: http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu_new.htm

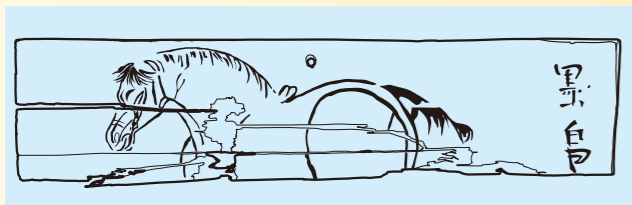
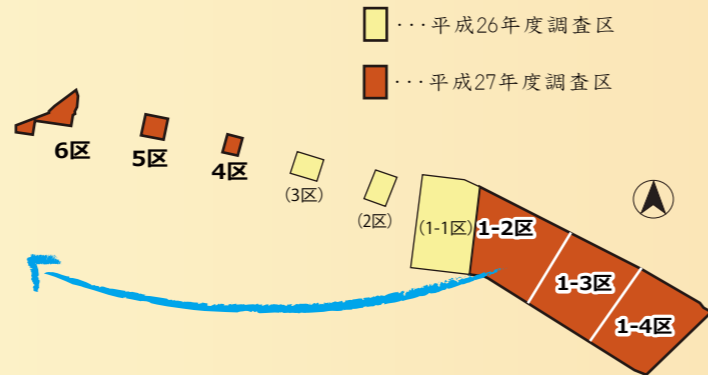


大楠遺跡

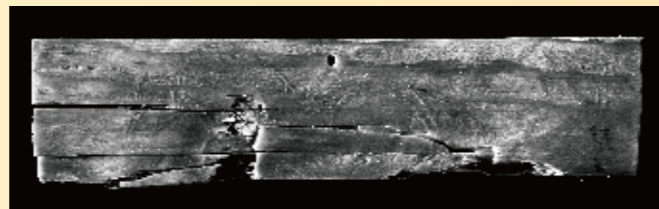
だいかくいせき



1-2区では、平安時代の流路の岸部から、絵馬が出土しました。幅 25cm の板材に墨で馬を描いており、右端部には文字もみえます。この時代のものとしては全国的にみても珍しく、県内では初めての遺跡からの出土例で絵馬としても最古となるものです。馬は、手綱を表現するなど、流麗なタッチでリアルに描かれています。当時のひとびとは、どんな想いを絵馬に託したのでしょうか…。



絵馬の実測図



絵馬の赤外線写真 (奈良文化財研究所撮影)

暑い、熱い、現地説明会！

8月8日(土)に開催した現地説明会では、気温35度になろうかという猛暑のなか、約150人もの方々にご来場いただきました(^o^)/。

県内最古の絵馬や大型の木製人形が事前に新聞報道されていたこともあり、古代の祭祀具の展示には特に注目が集まっていました。遺物だけでなく、祭祀具が出土した状況や、掘立柱建物群などの遺構の説明を現地でお聴きいただき、来場者の皆さんには大楠遺跡の古代の様子に思いをはせていただけたものと思います。

広い範囲を調査している大楠遺跡では、古代だけでなく様々な時代の遺構や遺物がみつかり、発掘調査成果の紹介は多岐にわたるものですが、来場者の皆さんからは夏の日差しに負けない熱い視線が注がれ、その関心の高さに職員一同感激いたしました。

暑い中ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました<m(_)_m>。



古代の川(祭祀場)に注目…!



鳥取県内最古の絵馬に注目…!

松原田中遺跡

まつばらたなかいせき



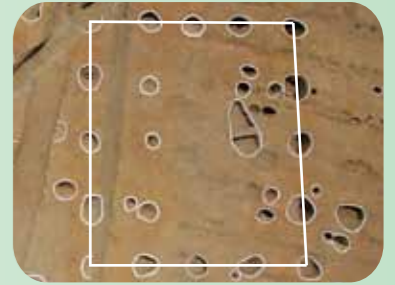
あるのか？ないのか？！柱穴のはなし。

松原田中遺跡3区では、古墳時代後期(約1,600~1,450年前)頃の遺構の調査に入り、土坑などのほか、沢山のピット(小型の穴)が見つかりました。ピットには、掘立柱建物の柱穴もあれば、用途がよくわからないものもあります。では、沢山のピットの中から、どうやって掘立柱建物の柱穴を見分けるのでしょうか？

一つは、ピットの並び方です。同じ間隔のピット列が正方形もしくは方形に並んでいれば、掘立柱建物の柱穴と考えることができます。

ところが、現実はなかなかうまくいきません。あってほしいところにピットがなかったり、あっても微妙にずれていたり。さらには、見つけたピットを掘ってみたらとても浅く、柱穴じゃなかった(「□」;)!!なんてことも…

もう一つは、ピットの中に柱の痕跡や柱の一部が残っていないか確認することです。今回の調査では、通常腐ってしまうはずの柱材が残っているピットが複数見つかりました。しかし、柱材は残っているものの、建物になりそうなピット列が見つからないものもあり、担当者は日々頭を悩ませています…(p_)



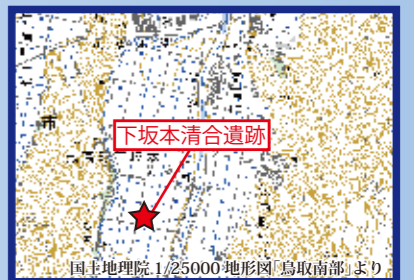
↑柱穴がそろい、建物の大きさがわかりました。



↑方形の柱が残っていました!

下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



この祈りが届きますように

鎌倉時代に流れていた川の跡を掘り下げていますと、川底に堆積する砂の中から、小さな船の形をした木製品が出土しました(写真上)。これは舟形という祭祀具で、川に流して使われました。その目的には、航海の安全を祈り、天神や水神へ舟形を捧げたという説と、穢れを移した人形を根の国(黄泉の国)へ運ぶための乗り物という説があるようです。下坂本清合遺跡では、おとし出土したもの(写真下)に次いで2点目の出土になります。

川や海に小舟を流す風習は、現在では「精霊流し」や「灯籠流し」といった、故人や祖先の霊を供養して送り出すお盆の行事として、全国各地で行われています。鳥取県内では鳥取市青谷町夏泊と琴浦町赤碕で、精霊船(しゃあらぶね)を沖へ流すそうです。舟形の祭祀と直接のつながりがあるのかどうかはわかりませんが、いずれも人々の「祈り」と「思い」がのせられているのだと思います。精霊流しや灯籠流しのように、華やかだけど、もの悲しく、そして優しい、そんな行事が、後世にいつまでも伝えられるといいですね。



出土した舟形



おとし出土した舟形